

京都産業大学

ことばの科学研究センター

2025 年度 第 6 回研究会

1 月 28 日（水） 14:00～16:00
4 号館 2 階総合学術研究所会議室

ロシア語副動詞主体の揺らぎ

北上 光志（ことばの科学研究センター員・外国語学部教授）

形の上ではロシア語副動詞(deeprichastie)構文は英語の ing を用いた分詞(participle)構文に似ているが、ロシア語規範文法では「副動詞構文の副動詞主体は本動詞主体と一致しなければならない」という非常に強い制約がある。しかし、実際には副動詞主体と本動詞主体との関係が微妙に揺れている。この点について従来の研究は積極的なアプローチを行っていない。本発表は 19 世紀から 20 世紀にかけての文学作品で用いられている 1589 例の副動詞構文における副動詞主体と本動詞主体の関係を次の三点から分析する：1) 副動詞主体の意味的広がり、2) 副動詞主体の格表示と語順、3) 副動詞構文における譲渡不可能性。これらの分析を通してロシア語副動詞主体の揺らぎには話し手の主観性が大きく影響していることも言及する。

英語辞書における日本語からの借用語

一名詞の複数形記述をめぐってー

加野 まきみ（ことばの科学研究センター員・文化学部教授）

世界最大の英語辞書 *Oxford English Dictionary* (OED) には、語源が日本語であると明記されている語が約 600 語収録されており、その多くは名詞である。これらの中には、標準的な複数形語尾 -s をとらず、単複同形や複数扱いとして記述される語も少なくない。先行研究では、日本語由来名詞が英語の複数形体系に与える影響が指摘されている。本発表では、これらの語の使用実態をコーパスに基づいて調査し、OED（オンライン版、第三版への改訂が進行中）における記述更新の可能性を検討するとともに、2000 年以降に追加された新たな借用語の記述との比較を行う。